

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：介護老人福祉施設 わかたけ富岡	種別：介護老人福祉施設
代表者氏名：永井 由美	定員（利用人数）：定員134名 （利用人数：130名）
所在地：〒236-0051 横浜市金沢区富岡東2-1-5	
TEL：045-776-1230	ホームページ： http://wakatake.net/category/facility/tomioka/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：平成14年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 若竹大寿会	
職員数	常勤職員：66名 非常勤職員：43名
専門職員	（専門職の名称） 名
	看護師：9名 管理栄養士：2名
	介護福祉士：54名 栄養士：1名
	生活相談員：3名 機能訓練指導員：2名
	介護支援専門員：2名 調理員：13名
施設・設備の概要	（居室数） （設備等）
	多床室(4人部屋)：28室 浴室(一般浴・座位式機械浴槽・臥床式機械浴槽)
	2人部屋：8室 トイレ
	個室：16室 厨房
	静養室
	事務室
	宿直室
	休憩室
	倉庫
	エレベーター

③理念・基本方針

【法人の理念】

若竹大寿会は職員一丸となって人を幸せにします。人が大切になれる世の中を創ります。

【若竹大寿会職員の誓い】

私たちの目指すもの、それは自分自信が親にしてあげたいお世話、自分自身の子どもにひらきたい未来、自分自身が利用したいサービス。

【品質方針】

1. 顧客志向
2. 専門性向上
3. 効率向上

4. 素早く継続的な改善

5. 明るい職場

若竹大寿会は上記理念のもと、おひとりおひとりに「大切にされている」と実感していただけるようなあたたかさに満ちたサービスに全力で取り組んでいます。

④施設・事業所の特徴的な取組

シーサイドライン「南部市場駅」からすぐの立地です。光の差し込むテラスや緑豊かな中庭と家庭菜園もあり、面会時には外気浴や四季折々の植物や野菜に触れることができます。施設のすぐ前にある南部市場で買い物や外食を楽しむこともできます。開設して21年目を迎えます。地域のボランティアや近隣の保育園との交流もあり、ご入居者に楽しんでいただける行事やレクリエーションの機会を設けています。ボランティアの方々は行事等だけでなく施設の装飾や裁縫等でも活躍中です。

コロナ禍で一時面会ができない期間がありましたが、「コロナ禍でも食べる楽しみを」を合言葉に食事レクリエーションを実施、行事食・全国都道府県の郷土料理・スイーツの提供等を継続してきました。調理部門は直営調理とし、ご入居者の食事のニーズに応え食事を提供しているため好評です。

法人の使命である「職員一丸となって人を幸せにします。人が大切にされる世の中を創ります」のもと、マズローの欲求段階説に準拠し、生理的欲求の充足を大切にしたケアを実践しています。近年は法人の医師と連携し「看取りケア」にも積極的に取り組んでいます。

また、最新の介護技術の研修や、福祉機器を活用した「ノーリフティングケア」を推進し、ご入居者・職員に負担の少ない介護を実践しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年7月5日（契約日） ～ 令和6年3月18日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	- 回（ - 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1) 「食」を大切にされた支援により利用者の生活意欲の向上が図られています
生活の基本である「食」を大切に、どのような心身状況でも美味しく食べることができるよう調理や食器、雰囲気作りを心がけています。お正月にはおせち料理、毎月誕生月の利用者を祝う誕生会や季節に合わせた行事食、お寿司の実演、ホテルの食事のようなバイキングも企画し、好評です。嚥下困難な利用者には柔らかく飲み込みやすい形態を、療養食が必要な利用者には対応したものを提供する他、季節感や特別感を感じられる食器を使用し、美味しく楽しく食事ができる工夫をして生活への意欲向上につなげています。

2) 情報共有による協力体制が、業務改善や新規プロジェクトの推進力となっています

利用者の心身状態や状態変化、施設全体のルールや決まり事について、ブロックノートや伝達ファイル、介護記録を通して職員間で共有する体制が出来ています。品質方針の達成に向けて、課題抽出や業務見直しの合意形成ができる環境となっています。今年度の挑戦として、入浴介助業務の見直しと神奈川県ロボット実証実験事業の実験参加を行っています。職員間の方向性をあわせることで結果が得られています。職員が理解して協力する体制により、サービスの質の向上が実現しています。

3) 家族等との信頼関係の構築に向けた取組が期待されます

4人部屋が多くを占める従来型施設であり、新型コロナウイルス感染拡大対策は混乱を極めました。その中で家族への連絡が滞る事態が生じ、職員達は猛省しているところです。コロナ5類移行後は家族会も再開し、今後は3ヶ月ごとの家族会開催や定期的な面談の再開を目指しています。イレギュラーな対応を迫られた時にこそ、提供するサービスの質の真価が問われます。家族等との信頼関係の構築に向けて、日々の取組の積み重ねが期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度は初めての第三者評価受審の機会を頂き感謝しております。第三者評価受審及び事前準備を通じ、自施設の運営の課題を再認識致しました。その反面、自施設の強みを確認ができたこと、新たな気づきがあったことは大きな実りでありました。また、訪問調査時にはさらにたくさんのアドバイスや気づきを頂きました。強みに関してはますますの向上を、課題に関しては職員一丸となり真摯に向き合い、改善していきたいと思えます。

新型コロナウイルス感染症流行期間におきましては、面会、レクレーション、ボランティア活動の受け入れを縮小せざる得ない状況となり、関係の皆様にはご迷惑をおかけしました。2023年5月に5類感染症へ移行され、今後は徐々にコロナウイルス感染症流行前のような活発な施設の姿を目指して、施設サービスの向上に取り組んでいきます。ご利用頂きますご入居の皆様、ご家族の皆様、地域の皆様、関係機関の皆様の信頼を得て、サービスを利用いただけるよう、サービス向上に向け、研鑽し職員一同頑張りたいと思えます。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり